

# 栄

創立五十周年記念誌  
新潟県立新津工業高等学校

# 目次

祝 辞	新潟県教育委員会教育長	高井盛雄	3
創立五十周年を迎えて	実行委員長	高塚則明	4
創立五十周年記念誌発刊に寄せて	校長	江口司	5
「思い出」	後援会長	熊倉稔	6
創立五十周年を迎えて	P T A 会長	木了勉	7
中間地点	生徒会長	渡邊文弥	8
■学校案内			10
■思い出			
伝統と創造	第十三代校長	高桑利和	18
知の泉・技術の灯	第十七代校長	小野塚純夫	19
弓道部の思い出	旧職員	熊倉孝好	20
肩組みて 手をとりて ああ	旧職員	鳥井克巳	21
昔と今 これから	現職員	皆川輝保	22
新津工業の10年を振り返って 思うこと	現職員	大倉康二	23
開校時のおもいで	卒業生	岡村茂	24
光陰 矢の如し	卒業生	小柳新一	25
卒業して三十九年	卒業生	三富勝廣	26
手塚治虫の予言通り!? アトムを作る技術!!	卒業生	堀田宏	27

## ■学校報告

年間行事

学科の移り変わり・学科編成

卒業生推移

工業マイスター科

生産工学科

ロボット工学科

日本建築科

部活動紹介

## ■同窓会報告

同窓会の歩み

生徒海外派遣研修 中国編

生徒海外派遣研修 韓国編

## ■写真で振り返る年譜

## ■資料

歴代校長・職員名簿

P T A 役員名簿・後援会役員名簿

同窓会役員名簿

## ■記念事業報告

記念事業の経過・概要

記念事業実行委員会組織

編集後記

94	93	92	90	89	88	54	50	48	46	42	40	38	36	34	33	32	30
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----



## 祝 辞

新潟県教育委員会 教育長 高 井 盛 雄

本日ここに、新潟県立新津工業高等学校創立50周年記念式典が挙行されるにあたり、一言お祝いを申し上げます。

当校は、地域の方々の工業教育に対する熱意と期待を受け、日本経済が飛躍的に成長を遂げ、若き技術者の養成が急務であった昭和38年に開校し、3学科を有し、1学年8学級からなる工業高校へ発展するとともに、地域産業を担う、多くの有為な人材を輩出してこられました。

その後、近年における産業構造の変化や国際化・情報化の進展を受け、平成21年に工業マイスター科及び生産工学科の新設、さらには平成23年にロボット工学科、平成24年には日本建築科が新設され、時代の要請に応える、特色ある工業高校として、新たな期待を集めていることは周知の通りであります。

さて、本県では、地域の魅力を高め、地域の豊かな発展を実現するとともに、県民一人

一人が尊重され、幸せな人生を歩むことができる社会を築いていくために「個を伸ばす教育」を推進しております。

そのために、すべての高等学校で特色ある教育課程や教育活動を研究・実践し、各校のオリジナリティーを明確にし、オンリーワンの学校づくりを進める中、当校はその先頭に立ち、他に類例のない工業高校の姿を築きあげています。

開校以来50年、歴代の校長先生をはじめとする教職員の方々の熱心な教育実践と同窓会、PTA、並びに地域の方々のご支援、ご協力の下、常に新興の意気に燃え、「工業をもて、人を益せん」との伝統を受け継ぎ、発展を続けてきた当校が、本日の創立50周年記念式典を機に、ますます教育の成果を上げられ、一層の飛躍を遂げられますようご祈念申し上げます。お祝いの言葉といたします。



# 創立50周年を迎えて

創立50周年記念事業実行委員会 実行委員長  
同窓会長

高塚 則 明

新潟県立新津工業高等学校が、ここに創立50周年を迎えましたことは関係各位のご支援ご協力の賜物と心から感謝申し上げます。しだいでございます。

新津市に工業高校を設立したいという地の強い要請や技術者の養成が急務であるという時代の要請また高校進学者の増加を受け昭和37年11月1日に新潟県立新津工業高等学校として機械科四学級、電気科三学級の設立公示がなされ昭和38年4月14日に開校式並びに第1回入学式が挙行されました。

また昭和40年より電子科を新設、平成4年に機械科4学級のうち2学級を機械システム科に転科する等、総合的な工業高校として発展してまいりました。

その後は、少子化の影響で中学卒業者の減少と社会・経済状況の激しい変化や新潟県による中長期高校再編整備計画に基づき、転科、募集停止、新設をおこない、今日では工業マイスター科、生産工学科、ロボット工学科、日本建築科を有する県内でも特色のある工業高校となりました、これは正しく歴代校長先生をはじめとする諸先生方が時代に即した教育を実践してこられた情熱とご努力の賜であります、こうした教育環境の場で学業やスポーツ・文化活動を通して育った数多くの優れた人材を、昭和41年3月・第1回の卒業生を社会に送り出し

ていただいてから、今日まで一万数千余名の方が地元はもとより全国各地で活躍されており改めて新潟工業高等学校の存在の大きさを再認識しているところでもございます。

これもひとえに、学校へのなみなみならぬ思いのあるPTA・後援会・同窓会および関係各位の献身的ご尽力のおかげであると感謝に耐えないところであります。

新潟工業高等学校は『学ぼう匠の技と心』をコンセプトに、実践的な技能・技術の習得を目指す高校として、県内で最も恵まれた環境にあります、今日、我が国ではものづくりの基礎をなす技能・技術が見直されています、工業立国日本の伝統と心を学ぶ高校として創立五十周年の節目に卒業生諸氏が築き上げた輝かしい伝統を受け継ぎ、さらに精進し大きく飛躍したいものであります。

校長先生はじめ諸先生方には一層の情熱を、またPTA、後援会、同窓会の皆様方、地域の皆様方からも、引き続きご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

最後に五十周年事業に際し、ご協力を頂きました実行委員の皆様、ご寄付を頂きました卒業生、旧職員の皆様に心より御礼申し上げますと共に益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。



# 創立50周年記念誌発刊に 寄せて

校長  
江口 司

本校は昭和38年に、技術者の養成が急務であるという時代の要請と、旧新津市に工業高校を設置したいという地元の熱意により開校されました。産業の基幹である機械科と電気科が設置され、昭和40年より電子科を増設し、平成4年度機械科4学級のうち2学級を機械システム科に転科して、産業技術の変化、進路希望の多様化に対応し、総合的な工業高校として前進を続けてきました。1学年9学級という時代もありました。その後は、時代の推移につれて学級が減少し、1学年2学級募集まで縮小しました。しかし、平成18年度に学科改編と1学級増の計画が公表され、平成21年度より、工業マイスター科と生産工業科が誕生しました。さらに、平成23年度からロボット工学科が、平成24年度には日本建築科が新設され1学年5学級募集となり、実践的な技能・技術の習得を目指す県内では類をみない特色ある工業高校として生まれ変わりました。そして本年、創立50周年という節目を迎え、工業教育の灯を絶やすことなく記念すべき日を迎えることができる喜びを、皆様と分かち合いたいと思います。50年の間、年々有為の人材を世に送り卒業生一万余千名余をかぞえ、地元を始め全国各地に、そして世界へと飛躍し、各分野で活躍されています。それは誠に心強い限りであります。現在本校は、「学ぼう匠の技と心」をコンセプトに高い技能を身につけ、地域を支える人材の育成をめざし、ものづくりの学校として地域はもとより、県内でも知られています。

さて、日本の景気がなかなか回復する兆

しがなく、雇用の不安がなくならない状況下でも、全国の工業高校生の就職内定率の高さは、定着していますし、離職率の低さも特徴的です。これは、工業高校生が学んだことを仕事に活かそうという意識の高さと、ものづくり技能の力を企業が評価していることの表れではないでしょうか。日本ではものづくりの基礎をなす技能・技術が、今、見直されています。日本は従前より工業立国を目指し進んできましたが、その中心となつているのが製造業であり、その技術・技能のレベルの高さにおいては他国には真似ができません。しかし近年、卓越した技術・技能を持った世代が大量退職し、工場を国外へ移す企業が増えるなど、工業を取り巻く環境が変化するなか、継承者としてますます重要になってくるのが工業高校生です。日本の産業界に果たす役割は非常に大きいものがあると思います。工業立国日本の伝統である技術・技能をこれからも後生に伝えていかなければなりません。その重責を担う高校として本校の意義があるので。創立50年の節目において卒業生諸氏が築き上げられた輝かしい伝統を確かに受け継ぎ、さらなる飛躍への足がかりとなるよう、学校として全力で取り組む所存ですが、同窓生の皆様方、地域の皆様方からも、引き続き本校の教育にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、本記念誌の発刊に当たっては、実行委員の皆様をはじめ原稿の執筆、写真や資料の提供などご協力頂いた多くの関係者の皆様に深く感謝申し上げます。





## 「思い出」

後援会長

熊倉

稔

新津工業高校半世紀50年おめでとうございませう。心よりお祝いを申し上げます。又これからの10年、いや50年と年月を重ね、100周年を目指して頂きたいと願っております。

私と学校の思い出としては数年前、生徒海外研修に對しまして後援会と致しまして2泊3日韓国に行つて来ました。正式国名は大韓民国、朝鮮半島の軍事境界線38度線をはさみ朝鮮民主主義人民共和国との冷戦下で誕生した分断国家、朝鮮民族国家として統一を国民としては悲願の念を持つて待ち望んでいゝと思ひます。さて研修生6名。同窓会役員の方々と8月のお盆過ぎに新潟空港より旅立ちました。氣象状態も良く機体は余り揺れることなく約2時間で仁川國際空港に到着、入国審査を終えそれ以降女性のガイドの方に案内して頂き研修旅行のスタートで

す。自由の橋板門店の手前までは自由に出入りできる最後の地点です。又統一展望台からは南北朝鮮の分断を見る事が出来ます。その周辺にあつた民俗資料館には映写がされていゝました。朝鮮民主主義人民共和国の文化、芸能が流れていゝました。子供の音楽演奏、踊り民族衣装はきれいです。又ソウルタワー多数の観光客が集まる名所、四方がイルミネーションで楽しむことが出来ました。新潟県ソウル事務所長とお会いでき、情報・経済・労働に關しての状況をお聞きしました。研修生達は徴兵制度に興味があつたように見えました。同窓会の役員の方々に世話になり生徒及び全員無事帰国しました。最後になりましたが、これからの学校の益々の発展と皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。



# 創立50周年を迎えて

PTA会長

木 了 勉

新潟県立新津工業高等学校がここに創立50周年を迎えるにあたりまして、この半世紀の歴史を支えてきた校長先生をはじめとする諸先生、同窓会の皆様、後援会の皆様とPTA諸先輩の方々の並々ならぬご努力と熱意に敬意を表し、心よりお祝いを申し上げます。本校は、多数の工業人を輩出してきましたが、数年前には少子化に伴う閉校や高校再編の問題に直面してまいりました。しかし地域関係者のご尽力のもと、めでたくこの記念すべき節目を迎えることが出来ました。これは、新津工業高校が残してきた軌跡を、大勢の方が評価、または期待をし大切に思われている証であると確信します。

私は記念すべき節目の時期にPTA役員を任せられ、諸先輩の皆様と共に記念事業に参加する機会を得られたことに対し、PTAとして、また同窓生の一人としても光栄に思います。

新津工業高校の現在の学習内容を見ると、私の在学時と比較して、習う基礎は同じにしても、学習の範囲についてひろがりが見

受けられます。それだけ、世の中の工業技術が発達し、実社会の要求もより高次になってきたことへの反応でしょう。高校の3年間は、そんな社会に出るための貴重な準備期間であるといえます。私どもPTAは保護者として、そんな子供たちの3年間が少しでも充実する様、後方から支援していきたいと考えます。どうか、これからも同窓会、後援会、同じ保護者の皆様におかれましては本校の活動に際し今まで以上にご支援をいただければ、と切に願っております。

最後になりましたが、子供達の資質を最大限に引き出し誇りを抱ける様、導いて下さる先生方の指導力の賜と感謝致しますと共にこの学舎を巣立っていく子供達の未来に新津工業高校で養ったことを糧として「夢と希望」を実現すべく大きく「飛翔」していくことを確信いたします。そして新津工業高等学校が素晴らしい伝統を継続し、新たな世代へ引き継がれ更なる飛躍を願うと共に、校長先生初め諸先生方の今後の益々のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。



## 中間地点

生徒会長

渡 邊 文 弥

新津工業高等学校創立50周年おめでとうございます。生徒を代表して喜びの言葉を申し上げます。

戦後初の国産旅客機の完成、ビートルズのレコードデビューなど各業界で様々なできごとのあった1962年（昭和37年）新津工業高等学校は、新津の地に誕生しました。それから50年という長きに渡って、伝統を築き上げ、守ってきたことは、とても意義深いことと思います。本校では、戦後の日本が工業を中心に発展していく中で、工業分野において時代や技術の進歩に応じた授業や実習を取り入れ、就職先での即戦力として働ける多くの人材を育ててきました。その結果、地元企業をはじめとする多くの企業から採用していただけられる学校となりました。先輩方が築き上げてこられた努力の結実

としての50周年だとも言えるのではないのでしょうか。

そして、これから新津工業高等学校が、90年、100年と長い歴史を持つ学校になるためには、今度は新設学科となって入学した我々、工業マイスター科、生産工学科、ロボット工学科、日本建築科の生徒がさらに強い基礎を築き上げることが必要になると思います。50周年は、我々が自らの飛躍と新津工業高等学校の更なる飛翔の為に、もう一度、自己を見つめ直すよい機会です。私は、100年の歴史を持った新津工業高等学校の姿を思い描きながら精一杯高校生活を送りたいと思います。

その決意をもって喜びの言葉と致します。